



中電工

株式会社 中電工

2026年3月期 第2四半期決算説明会

2025年12月3日

イベント概要

[企業名] 株式会社 中電工

[企業 ID] 1941

[イベント言語] JPN

[イベント種類] 決算説明会

[イベント名] 2026 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会

[決算期] 2026 年度 半期

[日程] 2025 年 12 月 3 日

[ページ数] 35

[時間] 10:00 – 10:42

(合計 : 42 分、登壇 : 25 分、質疑応答 : 17 分)

[開催場所] インターネット配信

[会場面積]

[出席人数]

[登壇者] 1 名

代表取締役社長 重藤 隆文 (以下、重藤)

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



登壇

司会：お時間になりましたので、これより株式会社中電工、決算説明会を開催いたします。本日はご多忙の中、決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

開催にあたり、各種お願い、ご連絡事項を申し上げます。本説明会は決算報告の後、質疑応答のお時間をもうけております。

また、質疑応答開始後の Q&A 機能によるご質問はご対応できませんので、ご注意ください。全てのご質問にお答えできない場合もございます。その際は個別に対応させていただきますので、あらかじめご了承ください。

また説明会終了後、3 分程度のアンケートを用意しております。ご協力いただけますよう、よろしくお願ひいたします。

それでは、これより 2025 年度第 2 四半期決算について、代表取締役社長、重藤隆文よりご報告させていただきます。

重藤：皆さん、こんにちは。中電工社長の重藤でございます。本日は当社の 2025 年度第 2 四半期決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



ご説明する事項

- 1 2025年度第2四半期業績
- 2 2025年度業績予想
- 3 中期経営計画2027（2025～2027年度）の取り組み
- 4 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
- 5 株主還元
- 6 参考情報（会社概要他）

1

Copyright©2025 CHUDENKO Corporation. All Rights Reserved

本日ご説明する事項ですが、はじめに 2025 年度第 2 四半期の業績についてご説明いたします。続いて 2025 年度の業績予想について、その後に中期経営計画 2027 の取り組み状況、最後に資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応と、株主還元についてご説明いたします。どうぞよろしくお願ひいたします。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



業績（連結）

- 対前年同期「減収・増益」
- 売上高は、大型工事の進捗率が前年同期に比べ低かったことなどにより減収となつたが、中間期として過去2番目に高い値
- 各利益は、原価管理の徹底や施工の効率化、全社的なコスト低減の一層の推進などにより増益
- 各利益は、中間期として過去最高値

連 結 業 績	2024年度 第2四半期	2025年度 第2四半期	前年比	
			増減額	比率
売 上 高	982億円	957	▲24	97%
売 上 原 価	820億円	766	▲53	93%
売上総利益	(16.5%) 162億円	(20.0%) 191	29	118%
販 管 費	80億円	85	5	106%
営 業 利 益	(8.3%) 81億円	(11.1%) 105	24	129%
経 常 利 益	(9.3%) 91億円	(11.4%) 109	18	120%
親会社株主に帰属する 中 間 純 利 益	(6.1%) 59億円	(7.6%) 72	13	122%

(注) () 内は売上高利益率

3

Copyright©2025 CHUDENKO Corporation. All Rights Reserved

はじめに、2025 年度第 2 四半期の業績についてでございます。

2025 年度第 2 四半期の業績は、減収増益でございました。売上高は、大型工事の進捗率が前年同期に比べて低かったことなどにより、連結全体では前年比 24 億円減の 957 億円と、4 期ぶりの減収となりました。ただし、中間期としては過去 2 番目の売上高でございます。

一方、営業利益は原価管理の徹底や、フロントローディングによる工程前倒しなどの施工の効率化、追加工事の獲得、全社的なコスト低減の一層の推進などにより、前年比 24 億円増の 105 億円と、3 期連続の増益となりました。

経常利益は営業利益の増加などにより、前年比 18 億円増の 109 億円、親会社株主に帰属する中間純利益は、前年比 13 億円増の 72 億円となりました。各利益については、中間期として過去最高値となりました。

サポート

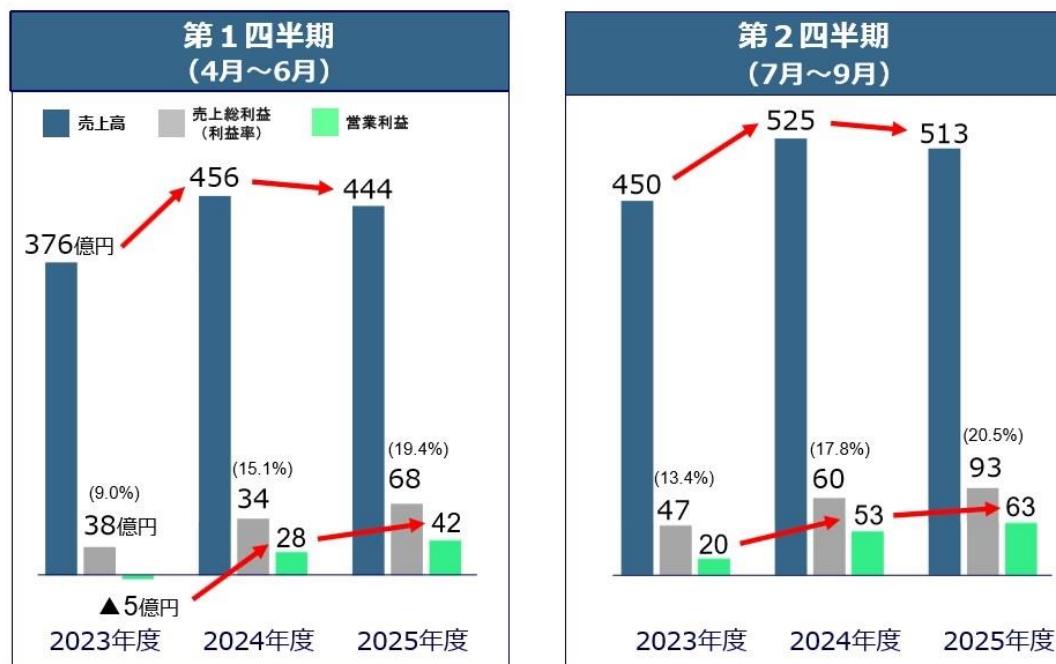
日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



各会計期間の業績比較（連結）

- 売上高は減少したが高水準を維持
- 利益は着実に向上



4

Copyright©2025 CHUDENKO Corporation. All Rights Reserved

こちらは第1四半期、第2四半期の業績を比較したものでございます。

青色の売上高については、第1四半期、第2四半期とも前年同期より減少しました。前年度は上期において大型工事の進捗率が特に高かったので、今年度は減少となりましたが、おおむね計画どおりの売上高となりました。

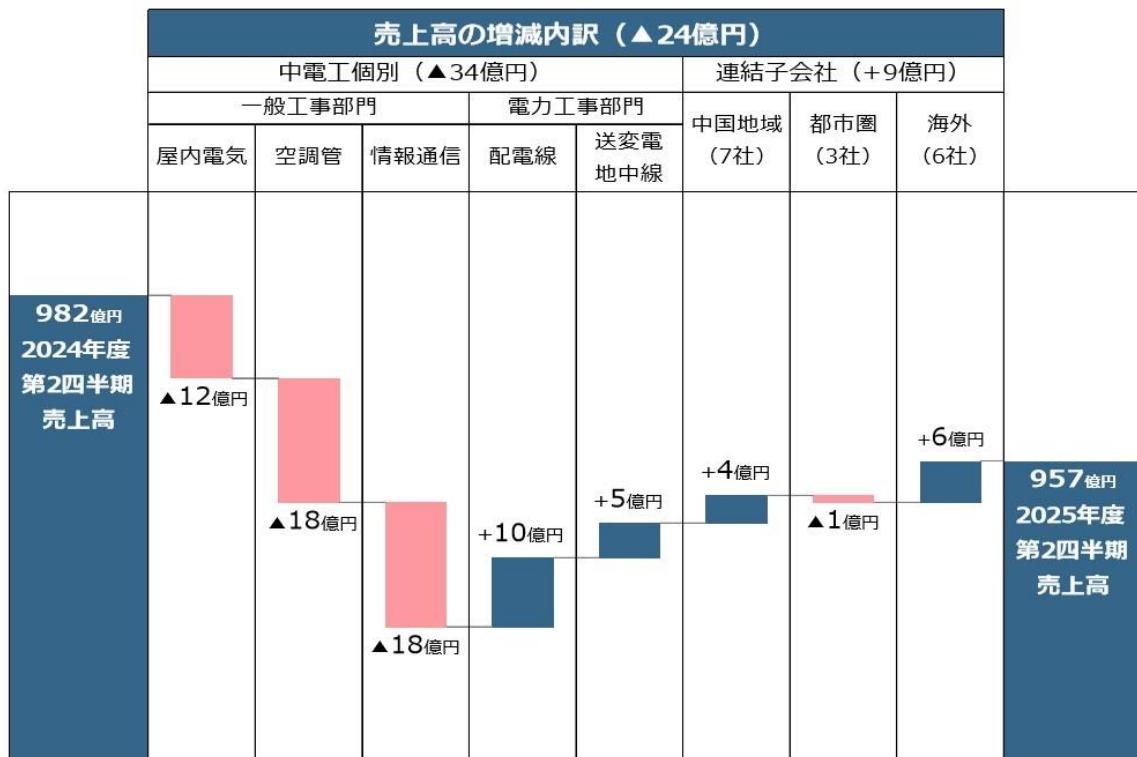
灰色の売上総利益と緑色の営業利益は、ともに大きく向上しております。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

売上高の対前年同期増減内訳（連結）



5

Copyright©2025 CHUDENKO Corporation. All Rights Reserved

続きまして、主な業績の増減についてご説明いたします。売上高の増減内訳でございます。

中電工個別では、配電線、送変電地中線の電力工事部門が増加したものの、屋内電気、空調管、情報通信の一般工事部門が減少し、前年比 34 億円の減。連結子会社は都市圏が減少したものの、中国地域、海外が増加し、前年比 9 億円の増となりました。

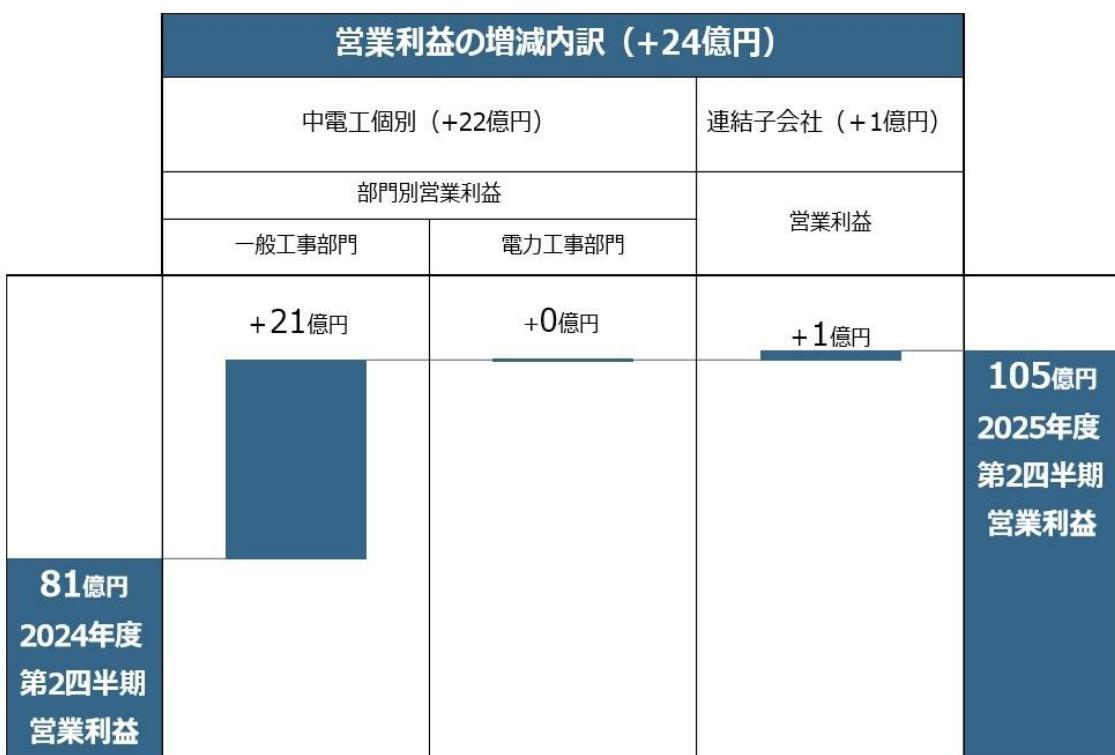
以上により、連結売上高は前年比 24 億円減の 957 億円となりました。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

営業利益の対前年同期増減内訳（連結）



6

Copyright©2025 CHUDENKO Corporation. All Rights Reserved

次に、営業利益の増減内訳でございます。

中電工個別では、屋内電気などの一般工事部門は原価管理の徹底などにより、21 億円の増加。配電線などの電力工事部門は前年並みで、前年比 22 億円の増となりました。

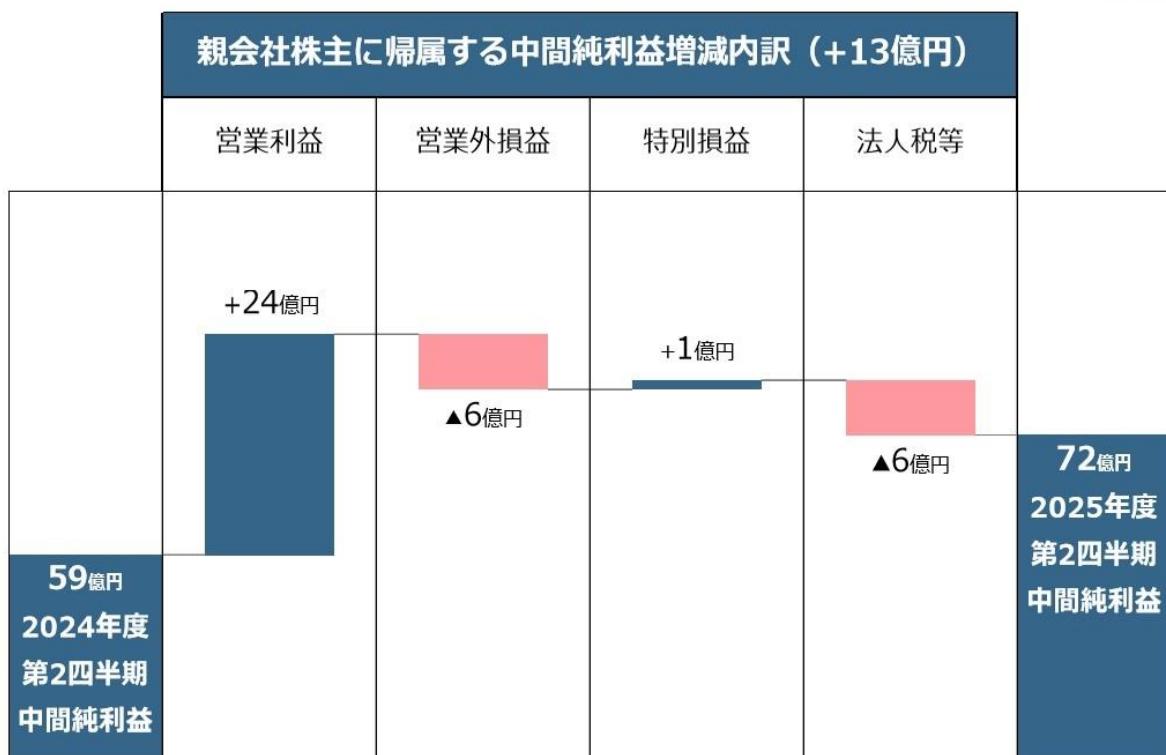
また連結子会社の営業利益が 1 億円増加したことなどにより、連結営業利益は前年比 24 億円増の 105 億円となりました。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

親会社株主に帰属する中間純利益の対前年同期増減内訳（連結）



7

Copyright©2025 CHUDENKO Corporation. All Rights Reserved

次に、親会社株主に帰属する中間純利益が、前年同期から 13 億円増加した内訳でございます。

営業利益が 24 億円増加したものの、2024 年度に出資したマレーシアの IAQ 社に係る持分法による投資損失を計上したことなどによりまして、営業外損益が 6 億円減少いたしました。

また、法人税等が利益の増加などにより 6 億円増加したことで利益を押し下げ、親会社株主に帰属する中間純利益は 72 億円となりました。

サポート

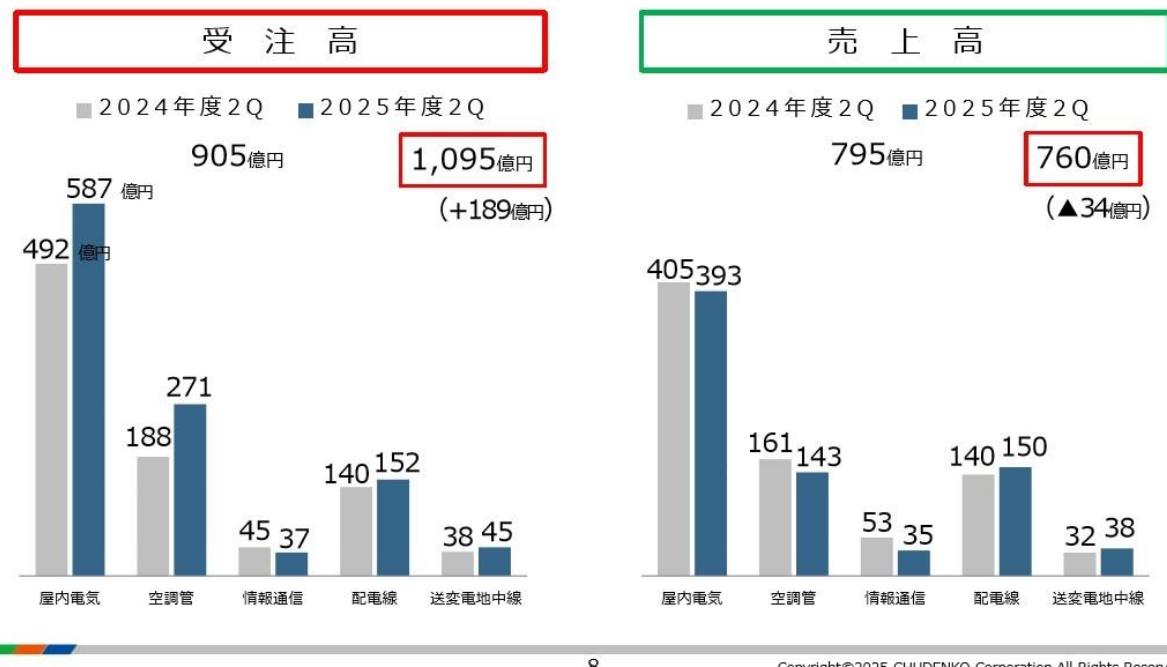
日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



部門別受注高・売上高（個別）

- 受注高は 対前年度189億円増（倉庫関係・事務所・病院などが増加）
- 売上高は 対前年度34億円減（倉庫関係・病院・高速道路関係などが減少）



8

Copyright©2025 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

次に、個別の部門別の受注高と売上高でございます。

左側の受注高は、情報通信工事が減少したものの、屋内電気や空調管工事における倉庫関係や、再開発事業に伴う事務所、病院などの工事が増加し、全体では前年同期を 189 億円上回る 1,095 億円となりました。受注高は、中間期として過去最高値となっており、好調な受注環境が続いていると考えております。

右側の売上高は、配電線工事と送変電地中線工事が増加したものの、屋内電気工事や空調管工事における倉庫関係や病院など、情報通信工事における高速道路関係の工事が減少したことなどにより、全体では前年同期を 34 億円下回る 760 億円となりました。

サポート

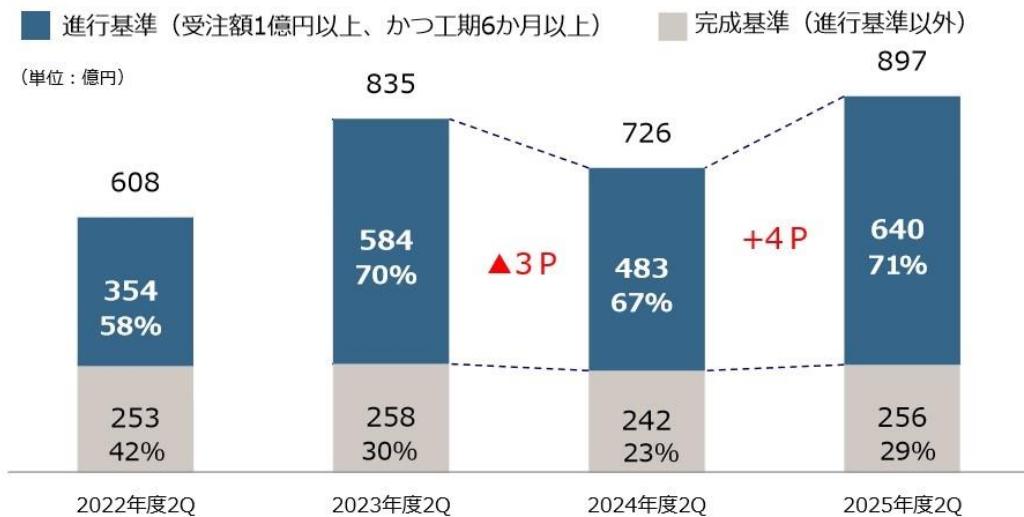
日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

一般工事部門受注高（個別）

- 2023年度から大型化が進み、工事進行基準の割合が増加
- 工事完成基準の受注高は、ほぼ同水準で推移

【工事進行基準の割合・工事完成基準】



9

Copyright©2025 CHUDENKO Corporation. All Rights Reserved

一般工事部門の工事進行基準、および工事完成基準の受注高の割合でございます。

青色の進行基準は、当社においては受注額 1 億円以上、かつ工期 6 カ月以上の工事をその対象としております。それ以外の工事は完成基準としております。2023 年度から大型工事の受注が増えています。当第 2 四半期においては前年同期より 4 ポイント増加しており、全体の 70% を占め、受注高も 640 億円と高水準な状況であります。

一方、灰色の完成基準の受注高はほぼ同水準で推移しております。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

一般工事部門売上高（個別）

- 工事の大型化が進み、2024年度以降、工事進行基準の割合が増加
- 工事完成基準の売上高は、ほぼ同水準で推移

【工事進行基準の割合・工事完成基準】



10

Copyright©2025 CHUDENKO Corporation. All Rights Reserved

続きまして、売上高の割合でございます。

青色の進行基準は、完成するまでに1年以上かかる工事が多く、受注高と売上高の計上時期がずれる傾向にあります。工事の大型化が進む中で2024年度以降、進行基準の割合が増加しており、当第2四半期においては前年同期より3ポイント減少しているものの、全体の70%を占め、売上高も397億円と高水準な状況であります。

一方、灰色の完成基準の売上高は、ほぼ同水準で推移しております。

サポート

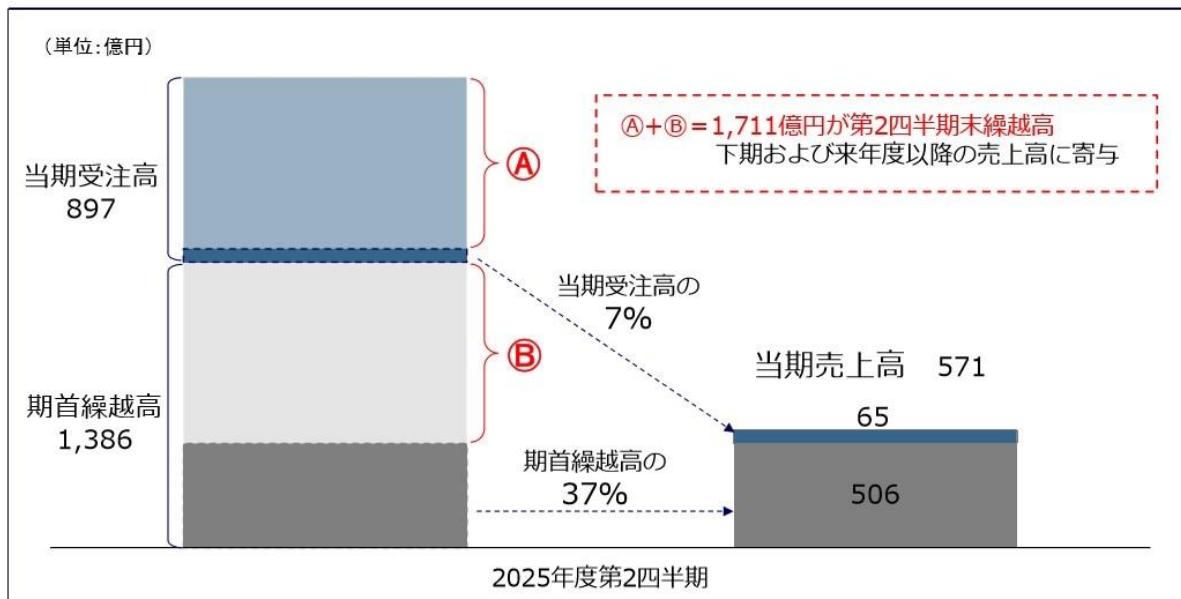
日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

一般工事部門売上高（個別：受注時期別）

- 当期受注高897億円のうち、7%の65億円を売上高に計上
- 期首繰越高1,386億円のうち、37%の506億円を売上高に計上
- 繰越高のうち、下期完成は約4割、残りが翌年度以降完成の見込み



11

Copyright©2025 CHUDENKO Corporation. All Rights Reserved

次に、一般工事部門の売上高を受注時期別に示したものでございます。売上高は当期受注高から売上高に計上するものと、期首繰越高から売上高に計上するものがございます。

グラフのとおり、当期受注高 897 億円のうち、7% の 65 億円を売上高に計上。一方、期首繰越高 1,386 億円のうち、37% の 506 億円を売上高に計上いたしました。

残りの A と B の合計 1,711 億円は第 2 四半期末の繰越高となり、このうちの約 4 割が下期に完成し、残りが翌年度以降の完成につながる見込みでございます。

サポート

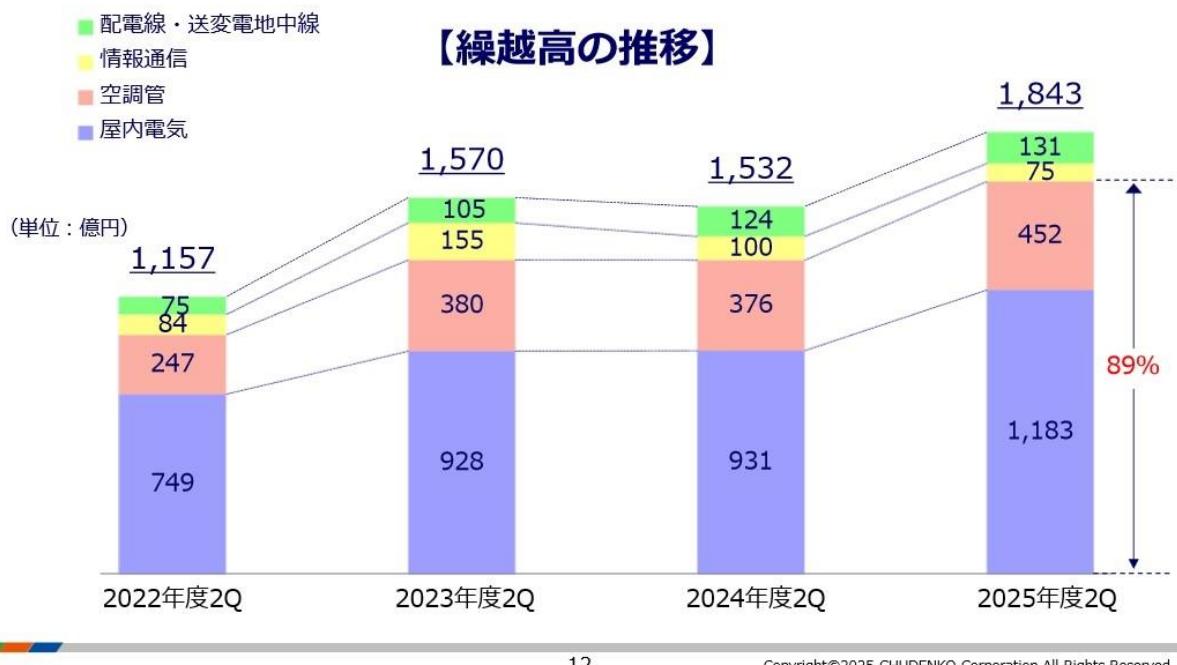
日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

 **SCRIPTS**
Asia's Meetings, Globally

第2四半期末の繰越高の推移（個別）

- 繰越高は、全体で1,843億円と対前年311億円増
- 主な繰越高：屋内電気1,183億円、空調管452億円



続きまして、中電工個別の繰越高の経年推移でございます。

近年、工事の大型化が進む中で、工事が長期化して売上高の計上時期が遅れる傾向にあることから、前年同期と比較して繰越高が増加いたしました。その結果、第2四半期末の繰越高は近年で最高値を更新しております。

このうち、屋内電気が1,183億円、空調管工事が452億円であり、この2部門で繰越高の約9割を占めております。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

貸借対照表（連結）

		2025年3月末	2025年9月末	増 減	主な増減要因
資産	流動資産	1,297億円	1,236	▲60	受取手形・完成工事未収入金等 ▲156 未成工事支出金 33 有価証券 32
	固定資産	1,641億円	1,700	58	長期貸付金 79
	資産合計	2,939億円	2,936	▲2	
負債	流動負債	506億円	429	▲77	支払手形・工事未払金 ▲100
	固定負債	136億円	140	4	
	負債合計	642億円	569	▲73	
	純資産合計	2,296億円	2,366	70	利益剰余金 40 その他有価証券評価差額金 35
	負債純資産合計	2,939億円	2,936	▲2	
自己資本比率		77.1%	79.5	2.4	

次に、貸借対照表でございます。

資産合計は長期貸付金が 79 億円増加したものの、受取手形、完成工事未収入金等が 156 億円減少したことなどにより、2025 年 3 月末から 2 億円減の 2,936 億円となりました。

純資産合計は、利益剰余金が 40 億円、その他有価証券評価差額金が 35 億円増加したことなどにより、70 億円増の 2,366 億円となりました。なお、自己資本比率は利益剰余金の増加による自己資本の増加等により、前年度末の 77.1% から 2.4 ポイント増加し、79.5%となりました。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

業績予想（連結）

- 前回公表値から上方修正
- 対前年度「増収・増益（営業利益・経常利益）」の見込み
- 売上高は中電工個別51億円、連結子会社49億円の増加
- 営業利益は売上高増加に伴う売上総利益の増加を見込む一方、人的資本投資による人件費の増加などを織り込み増益
- 親会社株主に帰属する当期純利益は前年度の法人税等の減少の反動減により減益

連 結 業 績	2024年度実績	2025年度予想	対前年		対前回公表値 増減額
			増減額	比率	
売 上 高	2,218 億円	2,320	101	105%	20
営 業 利 益	(9.8%) 216 億円	(10.3%) 240	23	111%	20
経 常 利 益	(10.6%) 234 億円	(10.7%) 248	13	106%	10
親会社株主に帰属する 当期純利益	(9.0%) 198 億円	(6.9%) 161	▲37	81%	3

(注) () 内は売上高利益率

続きまして、通期の業績予想でございます。2025年度の連結業績は、前年度と比較して増収、営業利益、経常利益増益を見込んでおり、前回公表値から上方修正しております。

売上高は中電工個別は51億円、連結子会社は49億円とそれぞれ増加を見込み、合計で過去最高となる2,320億円と、前年比約109億円増を見込んでおります。

営業利益は売上高増加に伴う売上総利益の増加を想定するものの、人的資本投資による人件費増加などを織り込み、前年比23億円増の240億円。経常利益は第2四半期実績でご説明しました、IAQ社による持分法による投資損失を織り込み、前年比13億円増の248億円。親会社株主に帰属する当期純利益は、経常利益が増加するものの、前年度の法人税等の減少の反動により、前年比37億円減の161億円を見込んでおります。

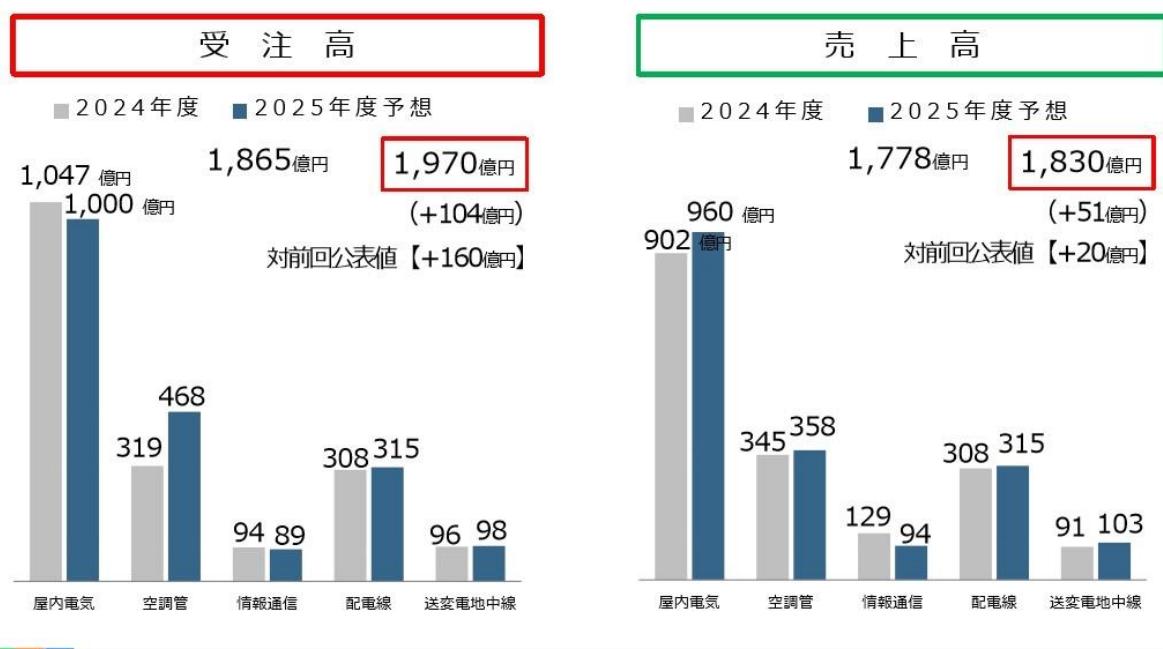
サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

部門別受注高・売上高（個別）

- 受注高・売上高ともに上方修正（受注高+160億円）
- 受注高は、104億円増加の見込み（主に空調管工事の増加）
- 売上高は、51億円増加の見込み（主に屋内電気工事と空調管工事の増加）



16

Copyright©2025 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

次に、個別の部門別の受注高と売上高の予想でございます。

左側の受注高は好調な受注環境を踏まえ、前回公表値から 160 億円上方修正しております。対前年で見ますと、大型工事の受注による空調管工事の増加などを見込み、前年比 104 億円増の 1,970 億円としております。

一方、右側の売上高も前回公表値から 20 億円、上方修正しております。対前年では豊富な繰越高を踏まえて、屋内電気工事や空調管工事の増加などを見込み、前年比 51 億円増の 1,830 億円としております。

サポート

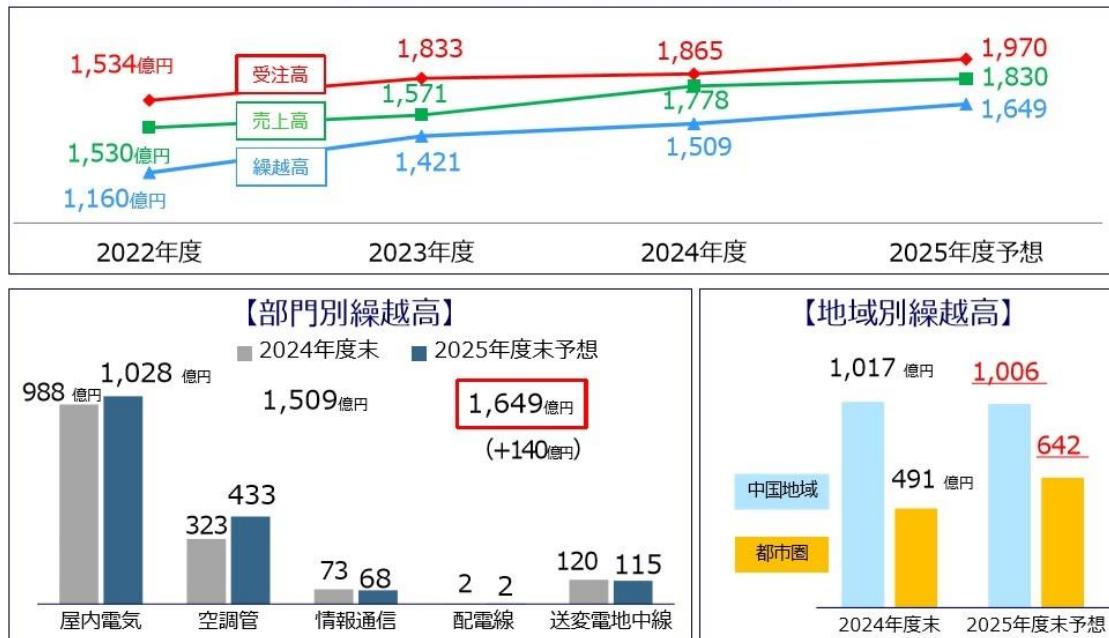
日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

受注高・売上高・繰越高 (個別)

- 受注高・売上高は増加傾向
- 繰越高は過去最高

【受注高・売上高・繰越高の推移】



17

Copyright©2025 CHUDENKO Corporation. All Rights Reserved

次に、個別の受注高・売上高・繰越高の推移でございます。

折れ線グラフのとおり、当年度の受注高、および売上高は前年度をさらに上回り、増加傾向でございます。繰越高も屋内電気工事と空調管工事が増加することにより、過去最高値を更新する1,649億円となる見込みでございます。

地域別で見ると中国地域は前年同程度、都市圏は着実に増加しており、この豊富な繰越高は次年度以降の売上高の持続的な拡大につながるものと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

一般工事部門売上高（個別）

- 2025年度も引き続き工事の大型化により、工事進行基準の増加を予想
- 2025年度の上期・下期の割合は従来の4対6に戻ると予想

【工事進行基準・工事完成基準の割合】



【上期・下期の割合】



左側のグラフは、一般工事部門の工事進行基準、および工事完成基準の売上高の割合でございます。通期の業績予想において、青色の進行基準はここ1~2年で大きく増加しています。予想額は934億円と、前年度を6億円上回り、進行基準の割合は66%となっております。また灰色の完成基準は478億円と、前年度を29億円上回る予想としております。

右側のグラフは、上期と下期の割合を示しております。先ほど第2四半期業績でご説明したとおり、前年度は大型工事の進捗率が高かったことで、上期の割合が例年より高くなっていますが、今年度は前年度以上の売上を下期に見込んでおり、上期と下期の割合は従来の4対6の比率に戻ると予想しております。

サポート

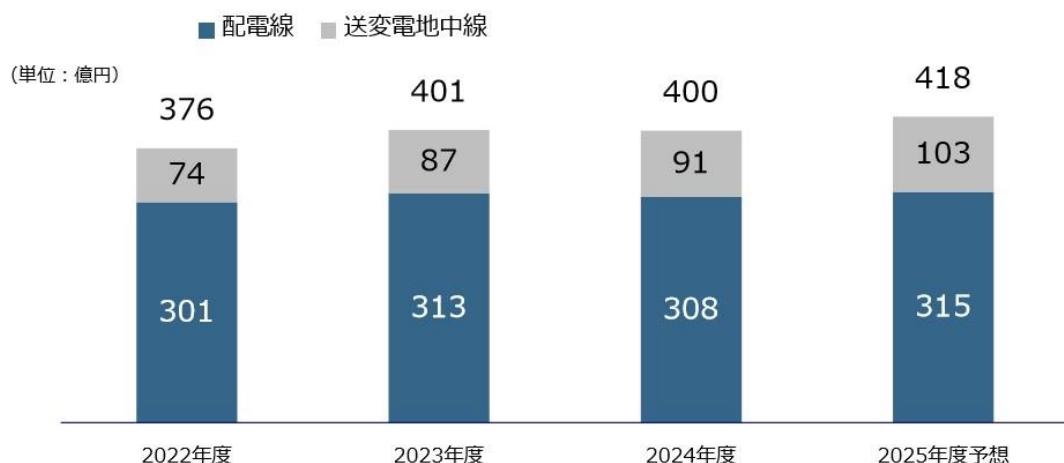
日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

電力工事部門売上高（個別）

- ▶ 主に中国電力ネットワークから受注し、中国地域での施工
- ▶ ここ数年では、400億円強の売上高を安定的に計上

【電力工事部門売上高の推移】



次に、電力工事部門の売上高の推移でございます。

電力工事部門は、主に中国電力ネットワークから中国地域の工事を受注しており、ここ数年、400億円強の売上高を安定して計上しております。今後も同程度の売上高を確保することができると想定しております。

またデータセンター等の建設に伴う電力需要の増加により、電力工事量の増加も予想されることから、これに対応するための施工体制の強化に取り組んでまいります。

サポート

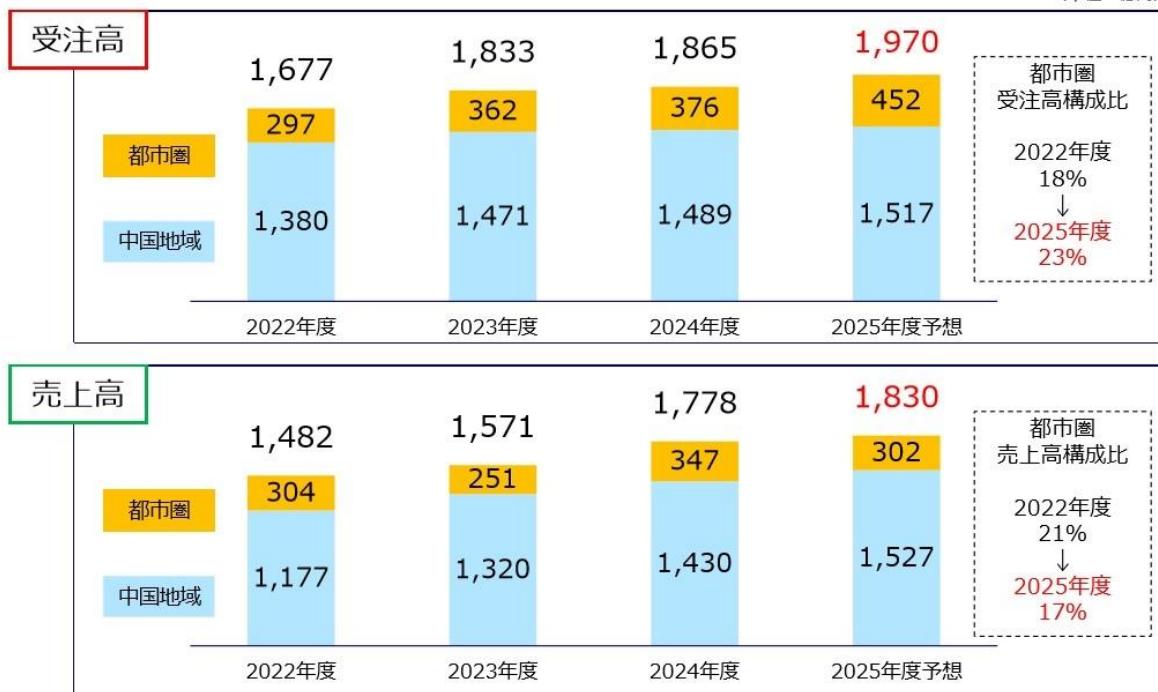
日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

地域別受注高・売上高（個別）

➤ 中国地域の基盤を強化しつつ、都市圏(東京・大阪・名古屋)を拡大

(単位：億円)



20

Copyright©2025 CHUDENKO Corporation. All Rights Reserved

次に、個別の地域別受注高と売上高の推移でございます。中期経営計画 2027 の成長戦略として、引き続き中国地域の基盤強化と、都市圏の事業拡大に注力してまいります。

青色でお示しした中国地域の受注高と売上高は着実に伸びており、2025 年度も前年度を上回る数値となっております。

オレンジ色で示した都市圏の受注高は、2025 年度の予想で 452 億円と大きく伸びており、受注高に占める割合は 3 年前の 18% から 23% と拡大しております。一方、売上高は前年度から 45 億円減少して 302 億円を予想しておりますが、前年度に大型物件の竣工が多かったことによる売上高計上の遅れが要因であり、先ほどご説明したとおり、都市圏の繰越高は 642 億円と大幅に増える予想であり、次年度以降は着実に拡大すると予想しております。

今後も中国地域のシェアを拡大しつつ、都市圏の事業拡大に向けて、営業力、施工力を一層強化してまいります。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



中期経営計画2027（2025～2027年度）の概要

Change & Growth For All to 2027

～営業力・施工力の強化と人的資本経営の推進～

1 安全・コンプライアンスの徹底と品質の向上

安全とコンプライアンスを最優先とした事業運営を徹底するとともに、お客様の信頼と満足度の向上に向けて、品質の確保・向上に取り組む。

- 協力会社と一緒にした安全最優先の意識と基準ルール遵守の徹底
- コンプライアンス意識の向上と法令遵守の徹底
- 工事のプロセス全体にわたる品質の確保
- 災害時の早期復旧など電力安定供給への確実な貢献 等

2 営業力・施工力の一層の強化と受注の拡大

中国地域のシェア拡大、都市圏の事業拡大に向けて、営業力・施工力を一層強化する。

- 営業要員の確保と設計力・提案力の強化
- 技術要員の確保・育成と施工管理者の最適配置
- 協力会社とのパートナーシップ強化
- 半導体・データセンターなど成長分野の受注強化 等

3 生産性の向上による利益の創出

DXや施工の効率化など業務全般にわたる生産性向上の取り組みを深化させ、更なる利益を創出する。

- DX、生成AIの活用による一層の業務効率化
- フロントローディングの全社展開による工事の平準化・効率化
- 迅速な情報共有、コミュニケーション強化による課題の早期解決
- 原価管理の強化と一層のコスト低減等

4 人材の確保・育成の強化と魅力ある職場づくり

採用方法の多様化による人材確保、育成の強化と魅力ある職場づくりを推進し、従業員のスキルとエンゲージメントの向上を図る。

- リファラル採用、初任地限定採用など採用方法の多様化
- 資格取得教育等によるスキルアップの継続的支援
- ワークライフバランスの推進
- 快適な職場環境の整備、健康経営の推進等

5 成長投資による事業拡大

カーボンニュートラルに向け、脱炭素化支援として環境関連ビジネスを推進する。また、事業拡大に向けたM&Aに取り組む。

- PPA事業など環境関連ビジネスの推進
- 技術研究開発の推進
- 施工体制の強化に向けたM&Aの推進等

続きまして、今年度からスタートした中期経営計画2027の取り組み状況をご説明いたします。

中期経営計画2027は、テーマをChange & Growth For All to 2027、営業力・施工力の強化と人的資本経営の推進とし、五つの主要施策を掲げ、持続的な成長サイクルの確立に向けて、グループ一體となって取り組みを進めております。

営業力・施工力の一層の強化と受注の拡大では、半導体やデータセンターなどの成長分野の受注強化に取り組んでおります。生産性の向上による利益の創出では、DX、生成AIの活用による業務効率化やフロントローディングによる工事の平準化、効率化を進めており、この中間期においては各利益について過去最高値となるなど、成果も表れてきております。

成長投資による事業拡大では、環境関連ビジネスとしてPPA事業に加え、系統用蓄電池事業の検討を進めております。施工体制強化に向けたM&Aについては、足元の好況な事業環境下では案件の創出が難しい状況が続いております。

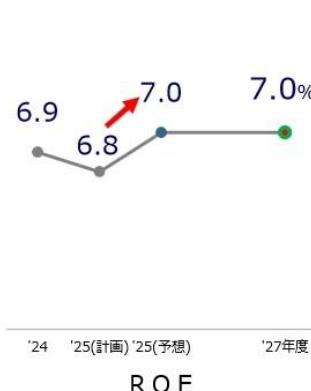
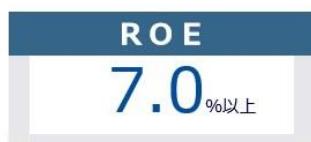
サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

連結数値目標

- 中期経営計画2027の数値目標の一部（営業利益・ROE）を達成する見通しを得たことから、今後、見直しを検討していく。
- 引き続き、主要施策を着実に実行し、更なる利益の創出に取り組む。



(注) 2024年度のROEは、決算数値9.1%から、過去に計上した投資損失を損金算入したことによる法人税等の減少効果（特殊要因）を除いた数値。

2027年度の連結数値目標として、売上高2,400億円、営業利益230億円、ROE7.0%以上を公表しておりますが、2025年度通期見通しにおいて、営業利益とROE目標を達成する見通しを得ましたので、今後見直しについても検討してまいります。

引き続き、主要施策を着実に実行し、さらなる利益の創出に取り組んでまいります。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

人材の確保・育成の強化（個別）

定期採用者数

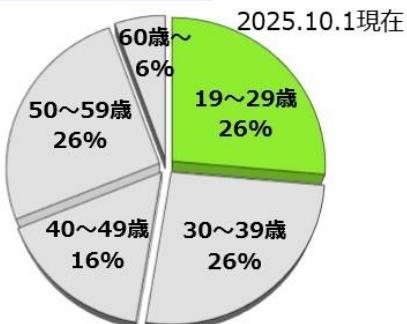
2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 計画（内定）
116	135	132	146	170 (171)

初任給改定

(単位：円)

	2024年4月	2025年4月	増額
大学卒	235,000	260,000	25,000

年齢別構成



有資格者数

資格名	取得者数		
	22年10月	25年10月	増減
電気工事施工管理技士（1.2級）	1,157名	1,292	135
管工事施工管理技士（1.2級）	295名	338	43
電気通信工事施工管理技士（1級）	98名	144	46
技術士	66名	71	5

(注) 施工管理技士（電気工事・管工事）の複数取得者 73名

24

Copyright©2025 CHUDENKO Corporation. All Rights Reserved

人材の確保・育成についてでございます。

厳しい採用環境ではございますが、2025年度は146名を採用することができました。2026年度は170名の採用計画に対して、現在内定者は171名となっております。

2025年度の賃金は、労働組合の要求に対して満額回答を行い、ベースアップと定期昇給を合わせて2年連続で5%を超える賃上げを実施いたしました。さらに初任給についても2万5,000円の増額改定を実施いたしました。引き続き、優秀な人材の獲得と企業の競争力の源泉である社員に、最大限に能力を発揮してもらうため、処遇の改善に力を入れてまいります。

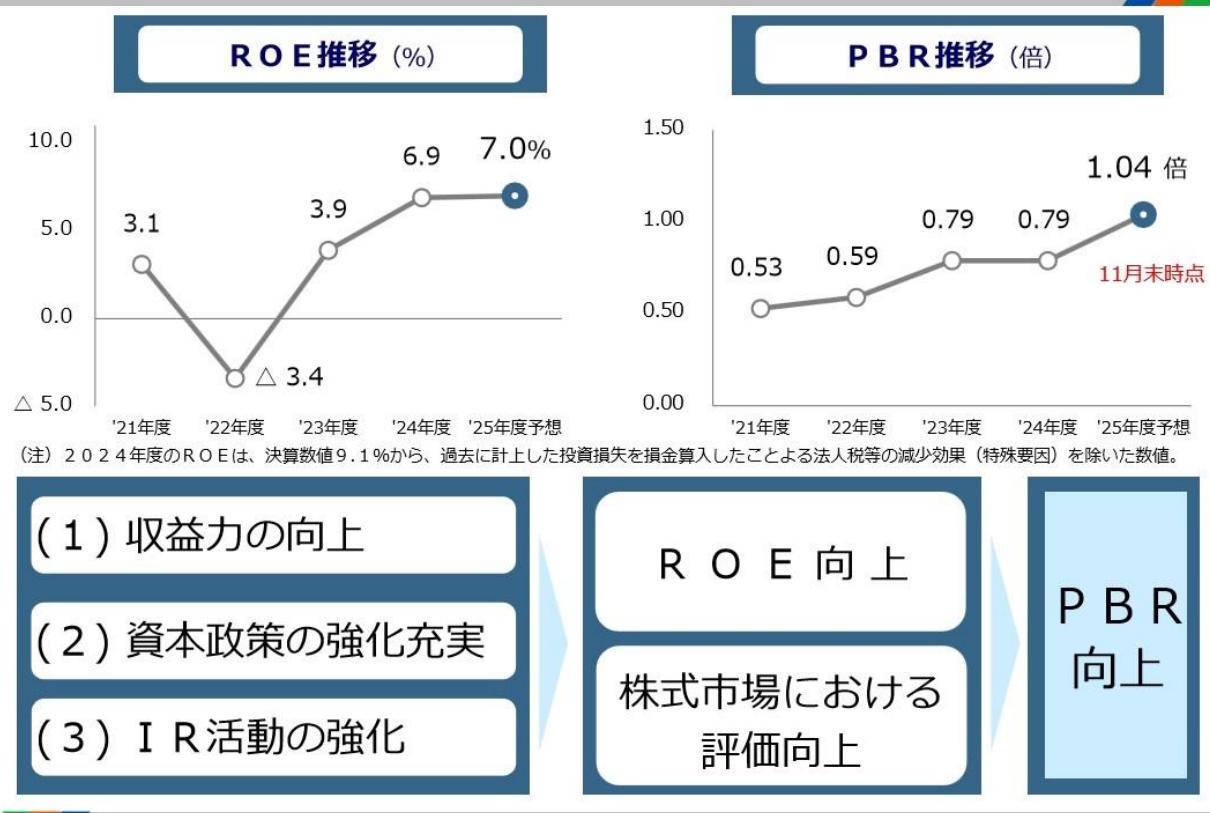
また、人材育成の強化にも力を入れて取り組んでおります。施工管理技士をはじめとする有資格者数も着実に増えております。年齢別構成では円グラフでお示ししているとおり、30歳未満の若年層が4分の1を占めており、若年層の早期育成が当社の施工力強化の鍵になるものと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

現状認識・PBR向上に向けた取り組み



26

Copyright©2025 CHUDENKO Corporation. All Rights Reserved

本年4月28日に公表いたしました、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について、改めて現状をご説明いたします。

当社は企業価値の持続的な向上を目指し、資本コストや株価を意識した経営を推進しております。現状、ROEは利益の拡大に伴い改善傾向にあり、これを持続的に高めていくため、さらなる収益力の向上や資本政策への取り組みを強化してまいります。

PBRについては株価の上昇に伴い、直近では1倍を超えており、これをさらに高め、盤石なものとするため、収益力の向上や資本政策の取り組みを強化してまいります。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

資本政策の強化充実

- 中期経営計画2027の3年間で、事業活動および政策保有株式の売却などで獲得する資金950億円を成長投資および株主還元に振り向ける。
- 成長投資の拡大：600億円程度
 - DX推進など事業基盤強化300億円、環境関連事業など事業拡大300億円
 - 株主還元の充実：350億円程度
 - DOE3.0%を目処に変更し3年間で配当200億円程度、自己株式の取得枠150億円程度を設定

成長投資の拡大 600 億円程度	<p>事業基盤強化への投資 300 億円程度</p> <p>事業拡大への投資 300 億円程度</p>	<ul style="list-style-type: none">▪ DX推進▪ 労働環境整備等の設備投資拡充▪ 人材の確保・育成▪ 技術研究開発 等 <ul style="list-style-type: none">▪ 環境関連事業▪ 設備工事業の強化・拡大▪ グループ会社の各事業強化・拡大▪ 新規事業 等
株主還元の充実 350 億円程度	<p>持続的・安定的な配当 200 億円程度</p> <p>自己株式の取得 150 億円程度</p>	<ul style="list-style-type: none">▪ 配当方針のDOE2.7%を目処から3.0%を目処に変更▪ 2026年3月期予想 1株当たり年間配当金130円 <ul style="list-style-type: none">▪ 自己株式の取得枠の設定

27

Copyright©2025 CHUDENKO Corporation. All Rights Reserved

資本政策の強化・充実については、中期経営計画2027の3年間で、事業活動および政策保有株式の売却などで獲得する資金950億円を、成長投資、および株主還元に振り向けます。

キャッシュアウトの内訳として、成長投資では600億円程度を設定し、DX推進など事業基盤強化へ300億円程度、環境関連事業など事業拡大へ300億円程度を振り向けます。

また株主還元では、配当方針をDOE3.0%目処に変更し、3年間での配当を200億円程度、自己株式の取得枠を150億円程度に設定いたしました。

今後も資本効率を重視した経営を徹底し、ROEの改善とPBR向上に向けて、企業価値の最大化に取り組んでまいります。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



配当金・配当性向の推移

➤ 2025年度予想・・・年間130円、DOE3.20%、配当性向43.7%



29

Copyright©2025 CHUDENKO Corporation. All Rights Reserved

最後に、株主還元についてでございます。まず、配当金と配当性向の推移でございます。

当社は 2010 年度から配当方針に DOE を採用し、2.0%目処からスタートして、2025 年度からは 3.0%目処に変更しております。

2025 年度の配当については、年間 1 株当たり 10 円増配の 130 円を予想しており、これにより DOE は 3.2%、配当性向は 43.7%となります。なお中間配当金として、半額の 65 円をお支払いしております。

サポート

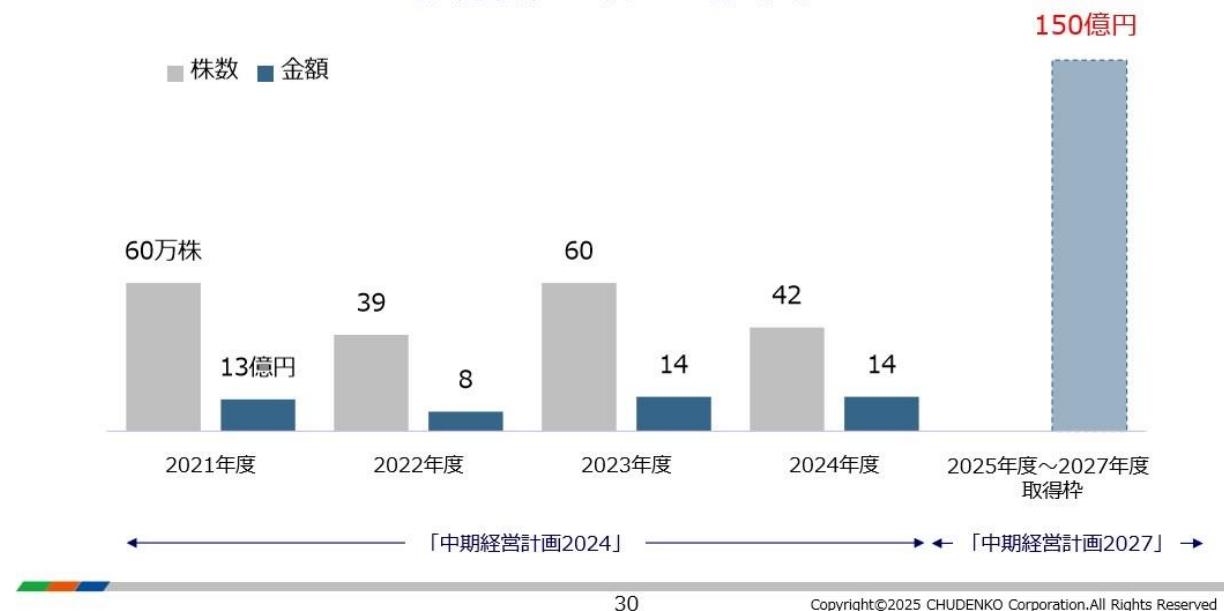
日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

自己株式の取得

- 「中期経営計画2024」の4年間で合計200万株、約50億円取得
- 「中期経営計画2027」の3年間で取得枠150億円を設定

【自己株式取得の推移】



最後に、自己株式の取得についてでございます。

前中計の中期経営計画 2024 の 4 年間では、合計約 200 万株、金額にして約 50 億円の自己株式の取得を実施いたしました。先ほどご説明いたしましたとおり、中期経営計画 2027 の 3 年間で、安定配当と自己株式の取得により、株主還元の充実を進めてまいります。

以上をもちまして、ご説明を終了いたします。なお、以下の資料は参考資料でございますので、ご説明は省略いたします。

ご視聴、誠にありがとうございました。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

質疑応答

司会 [M]：それでは、次に質疑応答に移ります。ご質問は Q&A 機能よりお願ひいたします。

お待たせいたしました。それでは、これより質疑応答に移らせていただきます。まず、最初の質問を読み上げさせていただきます。

質問者 [Q]：政策株よりも社債の保有が目立ちますが、償還になった社債は再投資せず、成長投資と株主還元に回されるという理解でよろしいでしょうか。

重藤 [A]：現在、投資有価証券 1,000 億円の内訳は、約 300 億円が政策保有株式、約 100 億円が関連会社株式、残りの約 600 億円は主に社債でございます。

社債につきましては事業拡大への投資として 300 億円を設定しており、この原資として使用してまいります。ただ M&A などで有望な案件がある場合は、この枠にこだわることなく隨時社債を売却し、投資に回していきたいと考えております。

以上、ご回答申し上げました。

質問者 [Q]：今回の決算について、どのように評価されていますでしょうか。

重藤 [A]：2025 年度第 2 四半期の業績につきましては、先ほどご説明しましたとおり減収増益となりましたが、売上高は中間期として過去 2 番目となる高水準な結果でありまして、各利益についても中間期として過去最高値となっており、中期経営計画 2027 の初年度として良いスタートが切れたと考えております。

今回の決算発表では業績予想の上方修正も行っており、今後も中期経営計画 2027 に掲げる諸施策に、グループ一体となって取り組み、さらなる成長を目指していきたいと考えております。

以上、ご回答申し上げました。

質問者 [Q]：受注時の採算状況について、いかがでしょうか。教えてください。

重藤 [A]：受注環境が好転していることもあり、2023 年度から 2024 年度にかけて、受注時採算が次第に向上しております。2025 年度においても、この好況が続いている状況でございます。

以上、ご回答申し上げました。

質問者 [Q]：現在の事業環境について、どのように認識されていますでしょうか。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



重藤 [A]：中国地域における半導体関連工場など、製造業の設備投資、そして都市圏における再開発事業や物流倉庫事業など、民間の設備投資は堅調でありまして、当社個別の受注高は中国地域、都市圏とも増加しており、次期繰越高も近年では最高値を更新するなど、建設需要は旺盛であると認識しております。

今後の事業環境につきましては、製造業の設備投資や、都市圏における再開発事業などが引き続き堅調に推移することが期待される一方で、エネルギー価格や原材料価格の高止まりに加え、労働者不足など、先行きが不透明な状況も続くと考えております。

このような事業環境ではございますが、私どもは中期経営計画の諸施策を着実に実行して、さらなる利益の創出に努めてまいります。

以上、ご回答申し上げました。

質問者 [Q]：都市圏の状況としてはいかがでしょうか。

重藤 [A]：当社はこれまで東京、大阪、名古屋など都市圏への要員配置を進めて、大型工事の実績を積む中で、次第にお客様との関係性も深まってきております。経験と技術力を生かして、事業の拡大も続けております。

その結果が先ほどご説明したとおり、受注高につきましては着実に伸びておる状況でございます。売上高につきましては、今年度は少し減少いたしましたが、豊富な繰越高を抱えておりますので、次年度以降は着実に拡大していく見込みであります。

利益率につきましても、以前と比べ格段に向上しております。また都市圏での事業拡大は、当社の全国大での認知度の向上にも寄与するものと考えており、こういったことで人材の確保にもつながるのではないかと期待しております。

なお、2025年度は都市圏出身者、都市圏大学卒の14人を新卒採用することができております。

以上、ご回答申し上げました。

質問者 [Q]：人手不足というお話をあったかと思いますが、その影響はいかがでしょうか。

重藤 [A]：特に一般工事部門では、都市圏を中心とした工事の大型化が進んでおり、繰越工事高は過去最高水準に達しております。そのため、当社の施工管理者はフル稼働の状況が続いております。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



こうした状況ではありますが、引き続き十分な施工体制を確保していくため、DXの推進による施工の効率化、各現場への最適な人員配置など、さまざまな対策を講じているところであります。

また人材育成の面からは、従業員1人1人のスキルアップに注力して、施工力の強化にも努めています。

以上、ご回答申し上げました。

質問者 [Q]：原材料や人件費など、工事に関する費用が高くなっていると思われますが、費用高騰分は価格転嫁できているのでしょうか。

重藤 [A]：原材料や人件費につきましてはコロナ禍が終わった後、非常に高止まりしている状況にございます。お客様にはこうした状況について十分ご理解いただいた上で、上昇分を適正に原価に反映するかたちで、交渉させていただいております。

以上、ご回答申し上げました。

質問者 [Q]：業績予想の上方修正を行っておられますか、営業利益については保守的な数値ではないでしょうか。

重藤 [A]：営業利益につきましては先ほどご説明しましたとおり、売上高増に伴う利益の増加を見込むものの、業績連動賞与などの人件費増加分を織り込んだ上での見通しとしております。

以上、ご回答申し上げました。

質問者 [Q]：自己資本利益率、ROEは8%以上を目標とはされないのでしょうか。

重藤 [A]：先ほどもご説明しましたとおり、利益の拡大に伴いROEは改善傾向にありますので、引き続き向上に努めてまいります。

中期経営計画2027におけるROE目標7.0%以上の見直しにつきましては、さらなる収益力の向上や資本政策の取り組みの成果を見きわめた上で、検討してまいりたいと考えております。

以上、ご回答申し上げました。

質問者 [Q]：政策保有株式の縮減時期、また金額の目標感を教えてください。

重藤 [A]：現時点では明確な縮減時期や目標金額を定めておりませんが、当社は取引の維持、発展や事業展開等を勘案し、当社およびグループの中長期的な企業価値の維持、向上に資すると判断した場合に、株式を政策的に保有する方針しております。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



一方、保有意義が希薄化した政策保有株式につきましては縮減する方針としておりまして、年1回、個別銘柄ごとに保有目的、信用リスク、および経済合理性を検証し、継続して保有する合理性が認められないと判断した銘柄は、取締役会に付議の上、売却しております。

以上、ご回答申し上げました。

質問者 [Q]：御社から見た、最適と考えられる自己資本比率のお考えはあるのでしょうか。

重藤 [A]：当社の自己資本比率、第2四半期末までで80%弱ですが、これが建設業の中では高めであることは認識しております。

自己資本比率につきましては何パーセントが最適であるとの基準はもうけておりませんが、資本効率の観点も十分に意識した上で、M&Aなどの成長投資を積極的に進めるとともに、持続的、安定的な株主配当の実施や、自己株式の取得といった株主還元もしっかり行っていく必要があると考えております。

また、この自己資本は過去から積み上げてきた事業の成果でもあります、当社の安定性、安全性を示す重要な指標の一つでもあると考えております。

以上、ご回答申し上げました。

質問者 [Q]：2026年3月期は、年間配当130円とするとのご説明でしたけれども、もっと上げられていくお考えはないのでしょうか。

重藤 [A]：当社の配当方針においては、持続的、安定的な配当を行うことを重視しており、この方針にのっとって配当額を決定しております。

今後の配当額につきましては、今年度の業績見通しや経営環境等を総合的に勘案して、検討してまいります。

以上、ご回答申し上げました。

質問者 [Q]：自己株式の取得枠を設定されておりますが、取得先はどこを考えておられますでしょうか。中国電力からの取得も考えておられますか。

重藤 [A]：現時点では特定の株主様を取得先として考えておりませんが、今後、大株主様とコミュニケーションを深めて、適宜、適切に対応していきたいと考えております。

以上、ご回答申し上げました。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



質問者 [Q]：上期実績の工事種別の粗利率を順番に並べると、どうなりますでしょうか。工事種別ごとに粗利率改善の濃淡があれば教えてください。

重藤 [A]：直近では好況な受注環境が続いておりますことから、特に屋内電気、空調管工事の粗利率が大きく伸びており、一般工事部門が電力工事部門を上回っている状況でございます。電力工事部門についても、利益率は一定割合を確保することができております。

以上、ご回答申し上げました。

質問者 [Q]：地域別では、都市圏のほうが粗利率は高いのでしょうか。今後、都市圏の売上が増えると、粗利率のミックスが良くなるでしょうか。

重藤 [A]：都市圏の粗利率は2～3年前までは低い状況が続いてきましたが、近年の受注環境を踏まえて、昨年度からしっかり利益を確保することができております。したがいまして、近時では中国地域と都市圏の粗利率は同じ程度の水準で推移しております。

以上、ご回答申し上げました。

司会 [M]：ありがとうございました。それでは、次を最後の質問とさせていただきたいと思います。

質問者 [Q]：前期の進捗率が低かった理由を教えてください。

重藤 [A]：上期においては大型工事の進捗率が特に高かったということで、前期の進捗率が若干ずれもございまして、低かったということでございます。ただ、絶対値としましては非常に高い数値を継続しているところでございます。

以上、ご回答申し上げました。

司会 [M]：ありがとうございました。頂戴したご質問は以上となります。非常にたくさんのご質問をいただきまして、ありがとうございました。

それではこれをもちまして、株式会社中電工、2025年度第2四半期決算説明会を終了させていただきます。

重藤 [M]：ありがとうございました。

司会 [M]：冒頭でも申し上げましたが、この後、画面が切り替わり、アンケート画面が表示されます。ご回答をよろしくお願ひいたします。

本日はご参加いただき、誠にありがとうございました

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



[了]

脚注

1. 音声が不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関する使用をしてはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中止、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中止、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

